

第1回 アメフラシってプニプニで気持ちいい～！

～舞子の海に広がるたくさんの生きものにふれてみよう～

- 日時 2019年5月18日(土)10時～12時
- 場所 アジュール舞子<垂水区>
- 企画運営 アースパルKOBE
- 講師 神戸市立須磨海浜水族園
- 協力 神戸市立須磨海浜水族園ボランティア
神戸親和女子大学ユネスコクラブ

◆曇り空で、少し肌寒い中でしたが、たくさんの方に参加していただきました！

岩場の陰を探してみたり、砂を掘ったり、水の中を目を凝らして見てみたり…。子ども達は、カニや魚など海辺の小さな生き物を夢中で採取していました。

タッチプールでは、講師の説明を聞きながら、普段はなかなか触れることのない生き物の様子をじっくり観察。海の自然の豊かさに存分に触れ合う一日となりました。今年も、参加者の方には、開始時間までの間、海岸の清掃にご協力いただきました。深刻な問題となっている「海ごみ」。触れ合った生き物たちを守るために、自分たちに何ができるのか考えることも大切です。



第2回 へえ、天気予報ってこうやって作ってるんだ！

～天気予報と異常気象の裏側を見てみよう～

- 日時 2019年6月29日(土)①10時～12時30分
②13時30分～16時
- 場所 神戸地方気象台(神戸防災合同庁舎)<中央区>
- 企画運営 アースパルKOBE
- 講師 神戸地方気象台 防災気象官
- 協力 神戸親和女子大学ユネスコクラブ

◆荒天のため順延となり、予備日での開催となりました。まず、気象官から天気予報ができるまでのお話と地球温暖化についての講義をしていただきました。普段なかなか聞くことのできないお話ばかりで、保護者の方からもたくさん質問が出ていました！

その後2班に分かれて、見学とワークショップの時間へ。現業室と観測露場の見学では、臨場感溢れるモニタや貴重な観測機器を見ながらの解説に参加者のみなさんも興味深々！ペットボトルでの雨量計づくりでは、工作しながら、持ち帰ってどんな風に計測してみようかと家族で相談している様子も見られました。



第3回 せんせい、この虫なんてなまえなの？ ～都会の森にすむ、たくさんの夏の虫に触れてみよう～

- 日時 2019年7月6日(土)10時～12時
- 場所 西神中央公園<西区>
- 企画運営 アースパルKOBE
- 講師 山本勝也さん(日本甲虫学会)
- 協力 神戸親和女子大学ユネスコクラブ

◆夏の暑さに負けず、多くの方々に参加していただきました。草原で虫取り網を使って飛んでいるトンボやチョウをつかまえたり、樹木の下にいる虫を探して見つけたり、広く自然豊かな西神中央公園で参加者達は思い思いに虫と触れ合い、その様子を観察していました。昆虫採集の後は、参加者で集まって捕まえた虫の発表会を実施しました。講師の山本さんには採集した虫の解説をしていただき、魅力的なその生態に子ども達は目を輝かせていました。森で守られている多様な生態系を維持するために必要な自然環境の保全是、そこにすむ生きものについて学ぶことから始まるのではないのでしょうか。



第4回 住吉川のアユが増えているらしいよ！ ～汽水域にすむいろんな生きものにふれてみよう～

- 日時 2019年8月10日(土)10時～12時
- 場所 住吉川汽水域(河口)<東灘区>
- 企画運営 アースパルKOBE
- 講師 兵庫・水辺ネットワークのみなさん
- 協力 住吉川清流の会、神戸親和女子大学ユネスコクラブ

◆当日は晴天で非常に暑い日となりましたが、ひんやりした住吉川の流水で子どもたちは元気いっぱいでした。海水と淡水が混じる汽水域では、観察できる生きものが多様なため、多くの種類の生きものを親子で一緒に捕まえて観察していました。兵庫・水辺ネットワークのみなさんには参加者が捕まえた生きものを解説していただき、地域固有の生きものや絶滅危惧種も多く見られたことを参加者は興味深く聞いていました。多くの生きものが生息する美しい自然を守るために、私達一人一人が自然環境について関心を持ち、身近な自然とふれあう機会を大切にすることが重要です。



第5回 プラごみで、海に暮らす生きものがピ～ンチ！ ～キミたちは生きものを救えるか！？～

- 日時 2019年9月28日(土)①10時～12時30分
②13時30分～16時
- 場所 須磨ヨットハーバー研修室<須磨区>
- 企画運営 アースパルKOBE
- 講師 原田禎夫さん(大阪商業大学准教授)
水野哲雄さん(京都造形芸術大学名誉教授)
- 協力 神戸親和女子大学ユネスコクラブ

◆今年度最後の講座のテーマは、世界的に大きな問題となっているプラスチックごみによる海洋汚染です。

オリエンテーションの後、海岸に出てプラごみを採取。大きなごみだけでなく、遠目に見れば綺麗に見える砂浜部分にも小さなプラスチックの破片がたくさん確認されました。

次に、研修室に戻り、講義に移ります。原田先生のお話の中では、どんな風にプラごみが発生しているのか、野生動物たちの健康や生命に大変な被害が出ていること、私たち自身も日常生活の中でたくさんのプラスチックを体内に取り組んでいることなど、多くのことを学びました。難しい問題ですが、低学年の参加者の皆さんも熱心に説明を聞いておられました。プラスチックごみの現状を学んだあとはワークショップの時間へ。

水野先生の指導で、自分たちが集めてきたプラごみでアート作品づくりを行いました。

「この破片は洗濯ばさみやったんかなあ」と、ごみがどこからやってきたのか考えながら制作している姿も。持ち帰ってからも、プラごみについて家族で考えるきっかけにしてくださいね。



今年度も、たくさんのご応募・ご参加 ありがとうございました！

